

学校教育基本方針

京都市立醍醐西小学校

学校教育目標

共に認め高まり合い、自ら将来を切り拓く子どもの育成

～人を大切にする子・最後までやりぬく子・健康で明るい子～

目ざす子ども像

人を大切にする子

友だちの気持ちを考え、友だちの良さに気づける子

すすんで挨拶ができる子

おはようございます こんにちは さようなら ありがとう と自然にあいさつができる子
最後までやりぬく子

目標を持ち、最後まであきらめずに頑張りとおす子

心も体も健康で明るい子

規則正しい生活リズムの中で、自立できる子

学校経営方針

「人権」を基盤に据えた学校、学級集団づくりを中核に据え、子ども達自身が自らの将来を切り拓いていくことができる力の育成を図る。

そのためにも、家庭的な課題や発達面での課題を抱えさせられている子どもをはじめ、全ての子どもに学力を保障していくことが最重要課題と考える。

基礎力

- ・言語スキル 数量スキル 情報スキル

思考力

- ・問題解決力 発見力 想像力
- ・論理的 批判的思考力

実践力

- ・人間関係形成力 コミュニケーションスキル チームワーク

以上のような点を重点に置き、子ども達の主体性と社会性の育成をめざし課題の克服と共に、子ども達の自己実現に向けて取組を推進する。

指導の重点

◎確かな学力（人権としての教育）

○基礎的、基本的な知識と技能の定着

- ・徹底した反復練習を含むスキル的な学習の徹底
- ・その知識や技能を活用して問題解決ができる能力の育成
- ・教員の得意特性を生かした指導

○明確な基準を持った指導

- ・子どもの可能性を引き出す粘り強い指導
- ・到達目標を明確にした指導《指導しきる》

○家庭学習の定着

- ・「家庭学習の手引き」をもとに、家庭学習の習慣づけ

基礎基本の未定着が現在の学力面での伸び悩みの要因であることが明確になっている。その課題克服のため、基礎基本の知識や技能の定着に向けての取組の徹底を図る。

⇒ 帯時間の徹底

漢字能力検定(2種類)、計算能力検定(2種類)を活用した取組の充実と徹底

⇒ 授業力の向上

個別の支援、個別の配慮(先行学習)等も含む「わかる」授業の構築

⇒ 家庭学習の習慣づけ

予習、スキル的な学習など、個の実態に応じた課題の設定を行う。

⇒ 学年付き教員(ブリッジ担任)の役割の明確化及び最大限の活用

数の広場、言葉の広場、家庭学習の課題、確認テストなどの準備と確認

各学年部においてブリッジ担任と教科指導及び入り込みを効果的に行う

一人一人の教職員が『こだわり』をもって『指導しきる』ことが重要である。目の前の児童に『今、どのような力をつけたいか』『つけなければいけないのか』を、短期的、長期的な見通し(将来展望)を踏まえた中で取組を推進していくことが重要である。

◎ 豊かな心、社会性の育成(人権を通しての教育、人権についての教育、人権のための教育)

○ 規律と調和のとれた集団づくり

- ・規範意識の育成
- ・体験・経験学習の充実
- ・集団づくりの中で自己有用感、自己肯定感の獲得

自己有用感、自己肯定感が依然低く、高学年においては規範意識も低下している実態がある。その実態を改善するために、道徳、特別活動、児童会活動等を中心とした取組の更なる充実を図るとともに学級では、個を認め合える集団づくりを中心とした経営の充実を図る。

⇒ 特別活動(話し合い活動)の充実

話し合い活動を通し、互いを認め合える集団づくりを行う。また話し合い活動のルール作りを行い、児童会活動等の充実をさらに図る。

子どもの自主的、主体的な活動を通して、子ども同士の絆を強固なものにしていく中で、いじめや規律に反する行為等は許されるものではないことを理解させるとともに、規範意識を高める。

⇒ 人権教育の充実

道徳教育をはじめ全ての学校教育活動の中で、共により良く生きていくために、互いの価値観等の違いを認め合い、共に高まり合える子どもの育成を図る。

⇒ 総合的な学習の充実

発達段階に応じ様々な社会問題について学習を系統的に行うことにより、社会の矛盾や不合理に気

づき、その解決に向け自らの生き方を振り返り、解決に向けた実践者となれるよう「正しい人権感覚」を身につける。

◎地域・家庭との連携

○確かな実態把握及び家庭学習の習慣づけのための家庭訪問の充実

- ・保護者との信頼関係の構築

子どもの実態の背景には、家庭の要因によるものが大きい。子どもの実態を改善していくためには、背景まで踏み込んだ実態把握が必要である。そのためには攻めの家庭訪問の充実が重要である。

的確なアセスメントを行い、子どもの現象面に表れてくる課題（虐待、発達面、その両方等）を克服していくための具体的な取組を進める。

○学校運営協議会の効果的な活用

- ・地域の人材を活用し、子どもの経験拡充を図る

目ざす学校像

一人一人が認められ、大切にされ安心してすごせる学校
共に認め合える集団の中で所属感を持ってすごせる学校
最後まで何事にも粘り強く取り組み達成感がもてる学校
共に高まり合える集団の中で充実感を持ってすごせる学校

目ざす教職員像

常に人権を意識した教職員

子どものモデルとなれる教職員

子どもの実態を的確に把握し、個に応じた関わりができる教職員

子どもの将来展望を見つめ、一人一人に届く授業の創造ができる教職員

保護者、地域等との連携を深め、共に子どもを育む教職員

前に踏み出す力（アクション）

～一步前に踏み出し、失敗しても粘り強く取り組む力～

主体性・・・・物事に進んで取り組む力

働きかける力・・他人に働きかけ巻き込む力

実行力・・・・目的を設定し確実に行動準備する力

考え方抜く力（シンキング）

～疑問を持ち、考え方抜く力～

課題発見力・・・現状を分析し目的や課題を明らかにする力

計画力・・・・課題の解決に向けたプロセスを明らかにし
する力

創造力・・・・新しい価値を生み出す力

チームで働く力（チームワーク）

～多様な人々とともに、目標に向かって協力する力～

発信力・・・・自分の意見を分かりやすく伝える力

柔軟性・・・・意見の違いや立場の違いを理解する力

規律性・・・・社会のルールや人との約束を守る力

傾聴力・・・・相手の意見を丁寧に聞く力

状況把握力・・・自分と周囲の人々や物事との関係性を理解する
力

ストレスコントロール力・・ストレスの発生源に対応する力